



## 学校再開に向けて

～学習支援員。図書支援の先生方、いつもありがとうございます～

13日(水)、3回目のポスティングが行われました。今回は、課題の配付だけでなく、回収箱を通して提出していただいた課題についても添削して返却します。この日は、久しぶりに多くの先生方が出勤し、元気に「行ってきます！」という挨拶とともに職員室から出かけていく姿が見られました。長く教員をやっていますが、まさかこんなことが起こるとは、本当に信じられません。

話は脱線しますが、先日 NHKBS「英雄の選択」で織田信長の桶狭間の戦いにおける「決断」が取り上げられていました。今の時代と単純に比べることはできませんが、非常事態宣言下や日常が失われているときは「常識」にとらわれないことが大切だ、という考え方が取り上げられ、納得させられました。最近アルペール・カミュの『ペスト』が話題になっていますが、時代は違っても、歴史から学ぶことはたくさんあるようです。

歴史と言えば、本校の図書室に一角に「原阿佐緒」さんを紹介するコーナーがありました。本当に分かりやすくきれいな展示なので、しばし見入ってしまいました。今年大和町に転入した皆さんは、ぜひ、どんなことをした人か、子供に教えることができるようにしておきたいですね。

さて、その図書室では図書支援員の松島先生が一冊一冊本の修繕をしてくださっています。小野小の子供たちは本を読むことが大好きなようで、これまで、たくさんの貸し出しが行われてきたことが分かります。ただ、それにしても、これだけの本を修繕するのは大変な仕事、本当にありがとうございます。

また、昇降口では、学習支援員の先生方が、1年生の保護者の皆様に取りに来ていただくための「アサガオの鉢」をクラスごとに並べてくださっていました。支援員の先生方には、時に児童館への応援をお願いしたり、担当する学年の教材の準備を手伝っていただいたり、と本当に助けてもらっています。

さて、(今野さんが、また素晴らしい作品を仕上げた)という噂を耳にしたので、ことばの教室に行ってみせてもらいました。この教室ではマスクをするわけにはいかないので、そのアイデアに感心させられました。遠藤順子先生にお聞きすると、「今野さんをお願いしたところ、イメージ通り(以上)に制作していただきました」とか。課題の回収箱に続いて、またまた今野さんの腕に感服させられました。

非常事態宣言の解除が濃厚になり、6月1日からの学校再開が現実味を帯びてきました。ただ、依然として感染のリスクは避けて通れない以上、以前の学校の「日常」を取り戻すにはまだまだ時間がかかりそうです。そういう意味では、子供たちの学校生活の中心である授業、行事そして、学校生活を支える給食、清掃等、これまでの学校の常識(慣習)にとらわれず、大胆に改革していくことが求められ続けていきそうです。

(文責：手代木)

